

ONE TEAM



北見医師会
北見赤十字病院

荒川 穰 二

新年、明けましておめでとうございます。昨年は、ラグビー W杯が日本で開催され、彼らの直向きなプレーから元気、感動、勇気をもらい、ONE TEAMがラグビーのみならず、あらゆる分野に求められていることを感じた。

昨年5月に開催された第75回北見医師会定時総会において、令和元年度の基本的活動方針が採択された。目標は、【全医師会員参加型のチーム医療による地域医療への貢献】とした。今野会長の「現状の医師会活動は理事と少数の先生が主に関わっている状況に思える。もっと広く会員全員に活動を知ってもらい、また開業医の先生と勤務医の先生の交流をさらに深めたい。慢性的な医師不足の状況においては、皆が手に手を取り合って、地域医療を支えることが大切と思う」とのお考えを受けて作成した。まさに、全北見医師会員によるONE TEAMで、時代を先取りしたと思っている（原稿を書いている昨年の11月18日時点で、令和元年の流行語大賞をONE TEAMと予測）。

昨年5月31日に開催された経済財政諮問会議で、根本厚生労働大臣は、2040年を展望した医療提供体制を三位一体で推進と述べ、I. 地域医療構想の実現に向けた取り組み：2025年までに医療施設の最適配置の実現と連携、II. 医師・医療従事者の働き方改革（2024年からの医師の時間外労働に対する上限規制）、III. 実効性のある医師偏在対策（偏在是正の目標年：2036年）を挙げた。特に医師偏在に関しては、三次医療圏・二次医療圏ごとに、全国ベースで客観的に医師偏在指標を提示し、それに基づき都道府県で計画を検討するとしている。医師偏在指標は、医療需要及び将来の人口・人口構成の変化、患者の流出入等、へき地等の地理的条件、医師の性別・年齢分布、医師偏在の種別（区域、診療科、入院/外来）を考慮して算出。しかし、公表予定であった数値は派遣実態を考慮していない、さらに数値そのものが実態とかけ離れていたため、暫定値、精査中として公表された。実際、昨年9月に開催された北網圏域地域医療構想調整会議医療専門部会においても、資料に提示された数値が実態と異なる、と委員からの指摘があった。また、一昨年より開始された新専門医制度において、医師の偏在を是正するために専攻医の募集定員に上限を設定するシーリングが、本年から北海道でも導入されることとなった。具体的には、麻酔科医が上限23名のシーリング対象となった。

また脳神経外科医も他の地域に比し充足しているとされており、将来、シーリングの対象となる可能性がある。今回のシーリングに関しては、北海道の麻酔科医の現状を把握しているとは思えない。麻酔科医は手術麻酔のみを行なっているのではなく、救急集中治療にも携わっていることが全く考慮されていない。また脳神経外科に関しても、本州とは異なり脳梗塞を含めた神経内科領域の疾患の診療を行なっている実態も把握していない。医療提供体制を三位一体で推進するという耳触りの良い言葉のみが先行し、地域の実態も把握しないで、机上の数字のみで政策が行われる危険性を感じている。

今、まさにONE TEAMとして全医師会員参加型のチーム医療を推進し、現状の地域医療体制を見つめ、地域から中央に情報発信すること、さらに医療の現状と問題点を、分かりやすい形で地域住民に明らかにし、ともに解決のために協力し合うことも大切である。本年が、その第一歩を踏み出す年となるよう、微力ながら努力したい。

